

海洋基礎科学コース

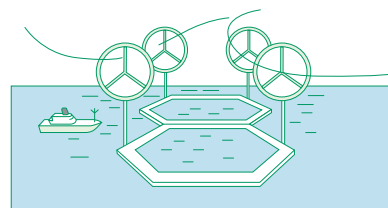
基礎科学の確かな知識を礎として、地球及び海洋に関わる環境・災害・資源・エネルギー分野の諸課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現を目指した教育研究を行い、専門的な知識および学力を身につける。

本コースの教育研究分野

- ・地球環境科学
- ・環境・エネルギー科学
- ・数物科学

本コースの授業科目（英文表記は英語による授業科目）

- ・ Comparative Planetary Science (比較惑星科学)
- ・ 海洋地球化学
- ・ 応用気象学
- ・ 海洋生物学
- ・ SABO: Sediment Hazard & Disaster Prevention (砂防理工学)
- ・ 応用海洋学
- ・ 大気環境科学
- ・ 水環境学
- ・ 機能性材料科学
- ・ Radiation Science and Applications (放射線応用科学)
- ・ 極低温科学
- ・ 量子ビーム科学
- ・ 核反応応用科学
- ・ 応用分析化学
- ・ 水素エネルギー科学
- ・ Basic Mathematical Science (基礎数理)
- ・ 計算科学
- ・ 海事熱物理学
- ・ 現象数理解析
- ・ Mathematical Science of Shapes (形の数理)
- ・ 応用物理学
- ・ 統計解析
- ・ 海事応用力学
- ・ 地域環境科学論
- ・ 海洋環境気候学
- ・ 海洋探査技術
- ・ 海洋底物質科学
- ・ 海洋底物理学
- ・ 海洋資源法学



卒業生からのメッセージ



M.T

海洋安全システム科学コース



日本

1. 海事科学研究科を選んだ理由は？

もともと学部卒業後は就職しようと考えていましたが、学部での講義や研究を通じてさらに専門性を深めたいと思い、海事科学研究科へ進学しました。

海事科学部では海洋学や基礎科学分野のみならず、経済学等の社会科学も学ぶことができました。様々な分野に興味を持ちましたが、特に環境科学に興味を持ち、大学院では大気環境の研究に取り組みました。

2. あなたの研究された内容について説明してください。

船舶の排ガスが大気環境に及ぼす影響について研究しました。研究を実施するにあたり、環境省や地方自治体が公開している測定データのみならず、練習船に乗船し瀬戸内海周辺海域で洋上大気を測定したり、粒子状物質の化学成分を兵庫県の研究施設にて分析させていただいたり、多くの方にご協力いただき論文も出版することができました。この研究成果は、今後の船舶運航のあり方や海洋政策の立案などに生かされます。研究を通じて、環境学は化学・物理学等の基礎科学から海洋学、気象学、さらには社会科学まで、幅広い分野の知見が必要であることを学びました。

3. 大学院進学の魅力について教えてください。

時間をかけて専門性を深められることです。社会人になってから一層強く思いますが、学会や行き詰っていた時期も含め、研究に費やした時間はとても贅沢なものでした。特に海洋科学の分野は未開の研究領域が多く、誰でもフロンティアとなれることも魅力的だと思います。また研究を通じて「こんな社会人になりたい」と思える方々に出会えたことも貴重な財産となりました。

4. 卒業後の進路について教えてください。

文部科学省所管の国立研究開発法人、海洋研究開発機構(JAMSTEC)で事務職として勤務しています。専門性を直接生かせる研究職、技術職等の職種も魅力的でしたが、自分の専門性と能力を生かして活躍できること、ライフイベントにも理解があり、安心してキャリアを積める点が現在の進路を選ぶ決め手となりました。大学での課外活動や研究で培われた周囲を巻き込む力、目的を見失わず粘り強く試行錯誤する力が業務に生かされています。今後は、事務にとどまらず、大学院での研究経験を生かして、船舶運航管理等の現場に近い部署での業務や研究者とともに研究を推進する業務、海洋政策立案にかかわる業務に携わりたいと考えています。

5. 海事科学研究科を目指す高校生、大学生へのメッセージ

海事科学研究科には、他大学院では学べないユニークな分野・テーマの研究を行うための環境が整っています。是非興味を持った研究室を訪問してみてください。海事科学研究科の先生方・学生達が温かく迎えてくれると思います。

2023年6月現在